

鉄道ピクトリアル

JAN. 1956 Vol. 6 No. 1



新年特別号

〔付録〕①原色刷単相交流機関車の花形(ED451)

②鉄道用語小辞典(4)

—グラフ—

驀進するC62	1
初雪(第2回写真コンクール入賞)	27
ある日の思い出	28
車籍のない国鉄機関車	29
夕もや(第2回写真コンクール特選)	30
木津川の秋・トンネルを出たC55(同上推選)	31
スイスの登山電車	32
ベルギーの機関車	33
雪と鉄道	34
トピックフォト(名鉄5000形、相鉄5000形、東京都電1300形、ナハ10形試運転、DD50形、飯田線新線開業)	36
東京都電専用軌道に乗って	38
 —記事—	
電化3,300キロ計画決定	3
老ファンの思い出	4
東京都電専用軌道乗ったり見たり	6

軌間物語(1)	川上幸義	11
私鉄車両めぐり(24)	奈良崎博保	14
あの駅この駅(続)	大阪駅	18
木製客車通観(6)	瀬古竜雄	21
義経トンネル	小熊米雄	25
鉄道ファンの初夢	西尾源太郎	26
餓多電盛衰記(続)	小林茂	39
電車区めぐり(1)宮原電車区	江浪秀雄	42
鉄道の話題(1)		44
木製国電略史(Ⅲ)	寺田貞夫	45
鉄道の話題(2)		49
第2回鉄道写真コンクール入選発表		50
質問に答える		52
読者短信		54
車両の動き		56
新駅開業・後部車から		57
総目次(第5巻)		58
〔表紙説明〕「驀進するC62」		西尾克三郎撮影
昭30.11.28 東海道線宮原付近にて上り特急「つばめ」		
——カットは黒岩保美画く——		

今月の話題

電化3,300キロ計画決定

国鉄電化調査委員会は旧年10月発足以来2ヶ月の間に6回の委員会を開いて、11月29日内外に電化計画に関する最初の公表を行った。これによると、まずその第一次電化3,300キロ(昭和40年完成)は石炭消費量が多く経済効果の大きい線区で、既電化区間との関連を考慮し、第一期としておむね5カ年間に1,670キロを、第二期としてつぎの5カ年間に、1,620キロを電化せんとするものであることが明かにされた。

これに要する資金は、施設費780億円、電気機関車新造費781億円(1,269両)、隧道などの関連施設費260億円合計1,821億円で、これによって節約できる石炭は、昭和40年度において年間約260万トン、この費用は約95億円ということである。

第一期電化区間は

東北本線	上野—盛岡間	505.4 km
常磐線	上野—仙台間	305.7
北陸本線	米原—富山間	243.6
山陽本線	大阪一下関間	502.8
鹿児島本線	門司港—鳥栖間	108.3
合計		1,665.8

第二期電化区間は

東北本線	盛岡—青森間	204.7
奥羽本線	秋田—青森間	185.8
羽越本線	新潟—秋田間	271.7
信越本線	高崎—新潟間	314.7
北陸本線	富山—直江津間	120.2
篠ノ井線	塩尻—篠ノ井間	67.9
中央本線	甲府—名古屋間	278.8
関西本線	名古屋—湊町間	175.1
合計		1,618.9

この電化計画が完成すれば電気機関車1,269両新造により、蒸気機関車1,779両に相当する輸送力がえられることになるので、電化後の輸送力(現在の140%として)をまかなう蒸気機関車両数は、4,012両(現在は4,295両)となるが、老朽廃車が2,034両も出るので、過剰となる大形蒸気機関車は661両、不足する中・小形は1,749両となるという。

かくてC58,9600級以下の機関車が不足するので、3,300キロの電化が完成しても非電化区間は全国鉄線にたいしてまだ75%が残るので、これには旅客列車にディーゼル機関車が1,000両内外、閑線線区には自動車との対抗上、経営の合理化のためにディーゼル動車2,000両以上的新造が必要とされている。

1956年の春は電化3,300キロの開幕から明けてゆく。